

---

# テスト作品

kinoT

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

テスト作品

### 【Nコード】

N8783X

### 【作者名】

kinot

### 【あらすじ】

テスト用につくった物語です。読む価値ないです。構成とかも5分で作った物語です超適当です。どんどん批判してくださいというか貶してくださいいじぶんMなんでじゃなくて、向上させたいので。

お願いします。

なし

始まりはいつも、一発の銃弾だ。

けたたましい音が鳴り響く。音はMacBookからだった。手が柔らかいベットの上を滑り、スリースキーを押す、音が止む。起床時刻を知らせる文字。時計を見る。7時40分。10分過ぎていた。寝る。

覚醒。

時計を見る。短針と長針が逆になったかのような錯覚。錯覚ではなかった。ゆらゆらと漂う意識のまま、毛布の甘い誘惑から逃れる。洗面所に向かう。体は意識つまり脳の状態を体現するかのようには漂う。精神と肉体がつながってることを実感。

流れる水が髪を濡らし、頬をつたう。洗濯機から取り出した状態のまま乾いたタオルを掴む。8時42分。入学式は10時からだったか。

玄関に向かう。玄関は直方体の箱で占拠されていた。ダンボール製の箱を破るとダンボール製の箱が入っていた。Amazonの悪いところだ。ダンボールの箱を開けるとその中にはダンボールが。じゃなくて制服が入っていた。

真新しい制服。

中学と違い、スーツを模したような制服であることに気づく。

上着の前を留めるボタンは二つしかなかった。もし第二ボタンを女子にあげるとしたら、下のボタンを渡すのか。片方のボタンが無い自分の滑稽な姿を想像する。

靴を履き玄関のドアを閉める。交差点を右に、左に、踏切を通り過ぎ、歩道橋を降りたときに気がつく。

目の前には学校。『 中学』という文字。

「そうか」

無意識に中学の方向へ来てしまった。高校の名前はなんだったか。思い出した。i P h o n eで新しい学校の場所を検索。新しい学校は自宅とこの中学を繋いだ延長線上にあった。

最悪だ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8783x/>

---

テスト作品

2011年10月24日02時02分発行